

このコロナ禍の中で、保護者の出席と全ての先生がたの出席はかないませんでしたが、工学部の卒業生のみなさまと、大学院持続性社会創生科学研究科、そして大学院工学研究科の修了生のみなさまの卒業修了を祝う日を、本日、ここに迎えられたことは、本学にとりましても誠に大きな喜びでございます。

また、卒業生修了生のみなさまはじめ、この日まで温かく支援してこられたご家族、親身になって教育し、指導されてこられた先生がた、そして全ての関係するみなさまが、本日、このめでたい日を迎えられたことに対して、心よりお祝いとお慶びを申し上げます。

鳥取大学は昭和24年に、鳥取師範学校、鳥取農林専門学校などを前身校として新制国立大学としてスタートし、昭和40年に工学部が設置され、令和元年に70周年を迎えました。前身校の時代から、地域と一緒に歩みながら、また、地域から支えられながら、これまで数多くの卒業生を輩出してまいりました。みなさまも本日、そのなかのお一人となります。先輩たちは在学中、みなさまと同様、鳥取大学の基本理念である「知と実践の融合」のもとで、知識を深め理論を身につけ、実践を通して地域だけでなく広く国際社会にも貢献できる人材となるよ

う教育を受けて巣立っていきました。しかしながら、科学技術の発展や社会の変化の著しい今日では、在学中に修得した知識・技術だけでは不十分で、卒業修了後も常に新しい知識・技術を取り入れ、絶えず適切な実践を行っていく努力を続ける必要がございます。卒業生修了生のみなさまには、今の時代を生きるための、常に学び続ける姿勢や、物事を主観に囚われず客観的に捉え、様々な視点観点から柔軟に考え、適切に判断する方法を、在学中の様々な経験・体験を通して身につけて頂いたものと確信しております。

ところで、人間というものは自分で自分の活動範囲を決めつけたり、限界を自ら設定したりする傾向がございます。仕事でも研究でも、一度、自分はこの分野が専門であると決めると、その分野の外側には、なかなか目が向きません。また、手を出しません。自分の分野の少し外側には、もっと面白いテーマや、本来はやるべき仕事や、手つかずで、残っていたりしても、気がつかなくなったり、あるいは、気がついていても、気がつかないふりをしたりします。それは、自分の分野の中だけで活動していたほうが、慣れているし、楽だし、効率よく仕事が進むからです。ぜひ、勇気を持って、少し外側に自分の分野を広げてみてください。そ

うすると、もっともっと面白いこと、重要なことに出会えるはずです。

また、みなさまは、在学中の学びの中で、自分だけでできることと、自分だけではできないことがあることを身にしみて体験したと思います。自分だけでは限界があるかも知れないが、他者と一緒にやる、いわゆる協働することで、その限界を超えることができる。自分ができない部分を他者に補ってもらうことで、より大きな成果をあげられることを知ったのではないのでしょうか。研究の幅を広げ進展させようと思ったら、分野の異なる研究者との共同研究は欠かせません。仕事の面でも、それぞれが得意な所を分担し連携することで、本当に良い仕事ができ、成果が上がります。組織や、分野・専門が違っているから、お互いに理解できない、一緒に活動できないではなくて、これからは、組織や、分野・専門が違っているからこそ、一緒に連携し活動すべきで、その結果、成果も上げられると、考えを改めることが大切です。

さて、来るべき新しい理想的な社会は、第4次産業革命とそれに続く Society 5.0 ということになっております。Society 5.0 では、IoT で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、その結果、今までにない新しい価値が生

み出されます。AIによりロボットや自動走行の自動車などが可能になり、少子高齢化、人口減少、地方の過疎化などの諸課題が解決できると言われています。

そうした Society 5.0 を目指す動きの中で、突如として2年前に新型コロナウイルス感染症の感染拡大が起きました。その結果、卒業修了するみなさまの学生生活のまるまる2年間は、それまでの学生生活ではない、行動の制限された2年間となってしまいました。残念な2年間ではありましたが、みなさんには、逆に、この2年間があったからこそ、新たな学びや発見もあったはずで、実際に、このコロナ禍があったお蔭で社会においても新しい見方や価値観が出現したと言われています。一つは、このコロナ禍がこれから起こるであろう、気候変動による大災害や新興再興感染症へ向けての予行演習になるのではという期待。また、このコロナ禍で、私たちが、日常生活を送るにあたって、直接、接することのない、いかに多くの人々に支えられているのかという気づき。身近なところでは、移動して直接会わなくても済むことと、やはり移動して直接会わなければならないことのちがいが明確になり、無駄が省けて生活がスリムになったことなどです。

また、ごく最近、突如として起こった、軍事力による国際秩序の変更の動き。

世界の平和がいかに脆弱なものであるのか、一度、起こった戦争を終結させるのがいかに困難であるのか、このような現実には、多くの人々が戸惑いを覚えました。が、このようなときこそ、一人一人が情報を正確に捉え、正しい判断の下で行動することが大事です。

社会が大きく変化するのは、大不況や大災害、感染症のパンデミックや戦争のときといわれています。したがって、このコロナ禍や戦争が、Society 5.0 への移行が急速に進み、社会が大きく変わるきっかけになるのは間違いありません。

Society5.0 への移行は加速され、感染症や戦争が落ち着いた後では、経済活動の在り方、人間生活の在り方が、元に戻るのではなく、違った形に大きく変化することが予測されます。そういった新しい形の社会では、新たな社会のルールを作る必要があります。卒業生修了生のみならず一人一人が、真剣になって考え、しっかりと取り組み、ルール作りをして、平和な良い社会を作ってほしいと願っています。

また、卒業生修了生のみならずには、それぞれの分野の専門家である前に、常識ある良識ある社会人、そして文化芸術も親しみ、楽しめる人間性豊かな人にな

ってほしいと願っております。これからの人生、常に世のためひとのためという  
ことを意識して行動し、その結果、社会が良くなり、卒業生修了生のみなさまが  
実り多き豊かな人生を歩まれますことを心から願ひまして、お祝いの言葉とい  
たします。

平成4年3月18日

鳥取大学長 中島廣光